

令和元年度

研究紀要



秋田県立由利高等学校

巻 頭 言

校長 佐藤 緑

令和の時代最初の研究紀要が発刊される運びとなった。日々の教育活動でお忙しい中に御執筆いただいた本校の先生達に感謝を申し上げるとともに、お読みになる全ての皆様にとって本紀要が有益なものとなるようにと強く願うものである。

本校の校訓は『真実為原』である。これは生徒にとってだけではなく、私たち教員にとっても心のよりどころにするべきものである。「何が真実、あるいは虚偽であるかを見極め、人間として当然やらなければならないことは、つらくても苦しくてもやらなければならない」との教えは、教員の生活は多忙であるからこそ、原となすべき真実を見失うことなく、日々研修に努める必要があると心を引き締めてくれる。生徒が社会において主体的に生き抜いていく力の涵養のために、教員としてあるべき姿とは何か今後も自問することで、本校における教育の質を高めていけるものと確信する。

現代社会においては様々な場面で多様性の受容の必要性が叫ばれている。教育においても、生徒の多様な個性を尊重し、さらに伸ばさせることが求められている。しかしその大義名分の元に学校や家庭での教育が放任状態、さらには放棄に至ることがないように願いたい。そのためにも、個々の教員が自分の特長を生かしつつも、由利高スタンダードとして全員で同じ取組をすることが必要であると考えます。

令和4年度からは新高等学校学習指導要領が年次進行で実施されることを見据え、今年度は県教育委員会指導主事訪問の際に教員全員で取り組む1か月前課題を定めた。

『主体性を育み、思考力を高めるための授業実践

～学びに対する意欲や探究心を高めるための明確な授業目標の提示～

言い換えると、生徒の学びに向かう意欲を引き出すために、生徒にとってより具体的で、よりインパクトのある『本時の目標』を全教員が、全授業で必ず提示しようと申し合わせたのである。その申し合わせの効果は日々顕著になっていった。これまで使用頻度が低かった『本時の目標』シートが黒板の左上に見られるようになった。これまで目標が単元名だったのが、より具体的な表現になった。一足飛びに生徒の学力向上にはつながってはいないが、教員全員が同じ方向性をもつことで、必ずや成果は現れると信じる。

結びに、開校百年目という区切りの年、この研究紀要の発刊のために尽力して下さった研修部員や、貴重な実践記録や研究内容を寄稿して下さった関係教職員に改めて感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

校 長 佐 藤 緑

1 授業改善への取組

授業アンケート結果

2 研修報告

実践的指導力習得研修講座の指導案及び所感

理 科 鳥井 拓弥
地歴科 保坂 由衣
英語科 宮腰 果林

3 研究授業

地歴科（世界史B） 佐藤 かおる・保坂 由衣
保健体育科（体育） 月本 真・高橋 憂
家庭科（家庭基礎） 湊 章子
商業科（マーケティング） 伊藤 雅博
協議記録

4 研究・実践記録

県立高等学校教員の東北大学院大学理学研究科への派遣
AKITAグローバルネットワーク事業

理 科 工藤 卓哉
英語科 武田 裕子

授業改善への取組

- 授業アンケート結果

授業アンケート

年 組 氏名 _____ (科目名: _____)

今後の各教科・科目での授業改善の参考にするアンケートです。自分自身の考えを、回答欄に数字（1～4のいずれか）で記入してください。また、日頃の授業についての意見や感想などがあったら、下の自由記述欄に記入してください。

1	—	2	—	3	—	4
あてはまらない そう思わない						あてはまる そう思う

	回答欄
A 授業の「目標」について	
①授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	
②示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	
③授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	
B 授業における「思考・判断・表現」について	
④授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	
⑤授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	
C 主体性・キャリア教育の視点	
⑥自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	
⑦自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	
⑧授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	
D 各教科の特性に応じた質問	
⑨	
⑩	
⑪	

 授業に対する全般的な意見・感想（自由記述）

令和元年度 授業アンケート 集計報告（9月実施分）

全体		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	①授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	2.6%	8.1%	20.2%	69.1%
	②示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	2.9%	11.4%	31.9%	53.9%
	③授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	3.7%	11.0%	32.9%	52.5%
授業における思考・判断・表現	④授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	1.7%	7.9%	23.0%	67.4%
	⑤授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	1.6%	8.3%	27.7%	62.4%
主体性・キャリア教育の視点	⑥自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	1.3%	9.4%	36.0%	53.2%
	⑦自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	3.4%	18.0%	39.4%	39.2%
	⑧授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	2.6%	13.4%	39.6%	44.4%

国語		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	①授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	7.8%	33.3%	58.8%
	②示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	7.8%	35.3%	56.9%
	③授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	7.8%	39.2%	52.9%
授業における思考・判断・表現	④授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	2.0%	2.0%	39.2%	56.9%
	⑤授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	9.8%	29.4%	60.8%
主体性・キャリア教育の視点	⑥自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	2.0%	7.8%	45.1%	45.1%
	⑦自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	5.9%	15.7%	47.1%	31.4%
	⑧授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	0.0%	3.9%	52.9%	43.1%

地歴公民		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	①授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.6%	0.6%	9.1%	89.6%
	②示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.6%	3.9%	45.6%	49.8%
	③授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	1.0%	6.5%	40.5%	52.1%
授業における思考・判断・表現	④授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	1.3%	7.8%	27.5%	63.4%
	⑤授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	1.6%	9.1%	32.4%	57.0%
主体性・キャリア教育の視点	⑥自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	1.6%	9.1%	40.5%	48.9%
	⑦自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	3.6%	22.3%	44.3%	29.8%
	⑧授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	1.9%	16.5%	45.6%	35.9%

数学		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	①授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	14.9%	33.3%	22.0%	29.8%
	②示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	14.9%	35.1%	18.5%	31.5%
	③授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	16.7%	29.2%	17.9%	36.3%
授業における思考・判断・表現	④授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	4.2%	19.6%	18.5%	57.7%
	⑤授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	6.0%	27.4%	19.6%	47.0%
主体性・キャリア教育の視点	⑥自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	6.0%	29.2%	20.2%	44.6%
	⑦自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	4.8%	29.8%	19.0%	46.4%
	⑧授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	8.9%	28.0%	17.9%	45.2%

理科		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	①授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	1.2%	15.2%	83.6%
	②示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	0.6%	22.4%	77.0%
	③授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	3.6%	33.9%	62.4%
授業における思考・判断・表現	④授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	1.8%	23.6%	74.5%
	⑤授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	1.8%	3.0%	34.5%	60.6%
主体性・キャリア教育の視点	⑥自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	4.2%	34.5%	61.2%
	⑦自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	1.2%	15.2%	41.8%	41.8%
	⑧授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	2.4%	10.9%	44.8%	41.8%

英語		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	4.1%	18.9%	43.9%	33.1%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	2.7%	22.3%	39.9%	35.1%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	3.4%	20.9%	43.2%	32.4%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	1.4%	23.0%	75.7%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	4.1%	29.7%	66.2%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.7%	10.1%	48.0%	41.2%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	3.4%	17.6%	45.3%	33.8%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	2.0%	16.2%	49.3%	32.4%

保健体育		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	0.0%	24.8%	75.2%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	0.0%	36.2%	63.8%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	1.9%	33.3%	64.8%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	1.0%	1.0%	23.8%	74.3%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	2.9%	22.9%	74.3%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	4.8%	32.4%	62.9%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	5.7%	14.3%	38.1%	41.9%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	0.0%	7.6%	32.4%	60.0%

芸術		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	4.3%	21.3%	74.5%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	2.1%	19.1%	78.7%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	2.1%	2.1%	36.2%	59.6%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	2.1%	14.9%	83.0%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	2.1%	21.3%	76.6%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	2.1%	25.5%	72.3%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	4.3%	8.5%	40.4%	46.8%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	2.1%	4.3%	38.3%	55.3%

家庭		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	5.3%	25.5%	69.1%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	6.4%	33.0%	31.9%	28.7%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	10.6%	23.4%	31.9%	34.0%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	9.6%	38.3%	29.8%	22.3%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	2.1%	12.8%	42.6%	42.6%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	4.3%	29.8%	66.0%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	0.0%	6.4%	34.0%	59.6%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	0.0%	4.3%	22.3%	73.4%

情報・商業		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	2.6%	13.8%	83.7%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	2.6%	23.5%	74.0%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	3.1%	23.0%	74.0%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	0.0%	13.3%	86.7%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	0.5%	16.3%	83.2%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	4.1%	39.8%	56.1%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	3.1%	14.3%	43.9%	38.8%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	2.0%	8.2%	45.9%	43.9%

令和元年度 授業アンケート 集計報告 (1月実施分)

全体		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.5%	6.0%	22.3%	71.2%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.5%	7.9%	34.9%	56.8%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.6%	6.9%	35.5%	57.0%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.6%	5.0%	23.9%	70.6%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.7%	5.9%	28.3%	65.1%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.3%	6.9%	38.6%	54.2%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	2.7%	17.9%	40.4%	39.0%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	2.3%	14.0%	41.7%	42.0%

国語		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	1.6%	19.4%	45.2%	33.9%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	1.6%	16.1%	48.4%	33.9%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	3.2%	12.9%	46.8%	37.1%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	0.0%	29.0%	71.0%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	3.2%	19.4%	77.4%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	11.3%	43.5%	45.2%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	1.6%	17.7%	37.1%	43.5%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	4.8%	16.1%	43.5%	35.5%

地歴公民		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.4%	1.9%	16.9%	80.8%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.4%	4.9%	38.0%	56.8%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.4%	3.8%	38.3%	57.5%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	1.1%	10.2%	27.4%	61.3%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	1.1%	10.5%	32.3%	56.0%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.8%	6.4%	41.7%	51.1%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	3.0%	24.8%	33.5%	38.7%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	3.8%	21.4%	42.5%	32.3%

数学		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	4.3%	46.8%	34.0%	14.9%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	55.3%	29.8%	14.9%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	2.1%	38.3%	21.3%	38.3%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	6.4%	12.8%	80.9%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	2.1%	27.7%	29.8%	40.4%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	2.1%	29.8%	36.2%	31.9%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	2.1%	23.4%	38.3%	36.2%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	6.4%	27.7%	31.9%	34.0%

理科		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	0.0%	3.8%	96.2%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	1.0%	3.8%	38.1%	57.1%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	6.7%	40.0%	53.3%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	0.0%	15.2%	84.8%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	1.9%	29.5%	68.6%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	4.8%	56.2%	39.0%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	2.9%	21.0%	61.9%	14.3%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	1.0%	14.3%	58.1%	26.7%

英語		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	5.5%	29.9%	64.6%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.8%	8.7%	34.6%	55.9%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.8%	5.5%	35.4%	58.3%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	0.8%	17.3%	81.9%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	2.4%	18.9%	78.7%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	7.1%	36.2%	56.7%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	1.6%	15.0%	40.9%	42.5%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	1.6%	6.3%	41.7%	50.4%

保健体育		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	0.0%	28.2%	71.8%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	1.0%	22.3%	76.7%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	3.9%	28.2%	68.0%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	1.9%	6.8%	38.8%	52.4%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	1.9%	1.9%	38.8%	57.3%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	2.9%	22.3%	74.8%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	3.9%	8.7%	40.8%	46.6%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	0.0%	6.8%	36.9%	56.3%

芸術		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	0.0%	12.2%	87.8%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	0.0%	22.0%	78.0%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	2.4%	22.0%	75.6%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	0.0%	11.0%	89.0%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	0.0%	14.8%	85.2%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	2.4%	24.4%	73.2%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	4.9%	11.0%	35.4%	48.8%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	1.2%	6.1%	31.7%	61.0%

家庭		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	10.7%	33.9%	55.4%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	5.4%	41.1%	53.6%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	7.1%	42.9%	50.0%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	7.1%	35.7%	57.1%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	1.8%	33.9%	64.3%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	5.4%	44.6%	50.0%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	0.0%	14.3%	41.1%	44.6%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	0.0%	10.7%	37.5%	51.8%

情報・商業		1の%	2の%	3の%	4の%
授業の目標	① 授業では毎時間、または単元ごとに達成すべき目標（テーマ）が示されている。	0.0%	0.0%	22.2%	77.8%
	② 示される目標（テーマ）は、学ぶ内容に対する興味・関心が高まるものである。	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	③ 授業は、目標（テーマ）の達成に向けて進められており、目標（テーマ）に到達すること（振り返り）によって達成感を得ることができる。	0.0%	0.0%	44.4%	55.6%
授業における思考・判断・表現	④ 授業の中で、個人で思考する時間が設けられている。	0.0%	5.6%	16.7%	77.8%
	⑤ 授業の中に、自分の考えを伝えたり自分を表現したりする機会が設けられており、それによって自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	0.0%	0.0%	38.9%	61.1%
主体性・キャリア教育の視点	⑥ 自分は、学習内容に対する「見通し」を持って授業に臨んでいる。	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
	⑦ 自分は、授業終了後や家庭学習などの機会に、授業内容を振り返っている。	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	⑧ 授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う。	0.0%	0.0%	38.9%	61.1%

授業アンケート結果の分析

教科	分析
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月に比べ、1月では①～⑦までの項目において1・2の回答率が低下しており、各教科における授業改善の成果が見られる。 ・ 項目⑧「授業で学んだことを、さらに自分で深めて学びたいと思う」の変化がほとんどない。1月のアンケートの回答に3年生がほとんど含まれていないことも影響したと考えられるが、低学年次からの主体的な学習を促す指導が課題である。
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業目標を明示し、それについて話し合ったり発表したりする機会は設けられている。 ・ 授業に集中して取り組んでいるが、自分でさらに深めていこうとする姿勢にやや欠けている。
地理歴史・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に評価3・4（あてはまる）が多く、「①目標の提示」と「③振り返りによる達成感が得られている」が高評価であった。 ・ 9月と1月の変化は少ないが、「⑧授業で学んだことをさらに自ら深めたいと思う」が低下しており、特に1・2年次から生徒の主体的な学習を促すためのさらなる工夫が必要である。一方で「⑩他者との協働による自分の考えの深化」については上昇しており、成果がみられた。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話的な学びをする機会はあるようだが、工夫や改善していく必要がある。 ・ 授業の振り返りを意識させて、自身の成長を感じさせることによって、学びを深くさせる必要がある。 ・ 主体的に学べていない生徒が多いようなので、生徒が学びやすい学習環境作りをしていくための工夫が必要である。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ担当者の同じ科目であっても、クラスによる意識の違いが目立った。授業に面白みを感じているクラスほど、成績も良い傾向が見られた。 ・ 「実験をもっとしたい」という意見が多く、対応方法を考えていきたい。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由記述欄では、「授業が楽しい」「分かりやすい」との評価が多くあったが、逆に言えば生徒にとって「楽」な授業になっているかもしれない。生徒にもっと負荷をかける必要がある。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に4・3の記入が多く、生徒は満足していると推測できる。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値も上がってきており、引き続き意欲を高める工夫をしていきたい。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理実習などの体験的な学習を通して、生活に必要な知識や技術を身につけたいと思っている生徒が多く見られる。 ・ グループ学習では、自分の考えを伝えたり、他の人の意見をまとめて発表することを積極的に行えるようになってきている。 ・ 家庭科で学んだことを、各自の実生活で生かせるように今後も指導をしていきたい。
情報・商業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間の振り返りの大切さを認識させ、次時の授業へ結びつけていきたい。

研修報告

- 実践的指導力習得研修講座の指導案及び所感

第2学年 理科（物理基礎）学習指導案

日 時：令和元年9月3日（火）

指導者：工藤 稔（大館鳳鳴高校）

鳥井 拓弥（由利高校）

1 単元名 1編 物体の運動とエネルギー 2章 さまざまな力とそのはたらき

2 本時の計画

(1) ねらい

浮沈子の様子の観察や数式の活用を通して、浮力と体積との関係に気づき、そのことを定量的に表すことができる。(思考・判断・表現)

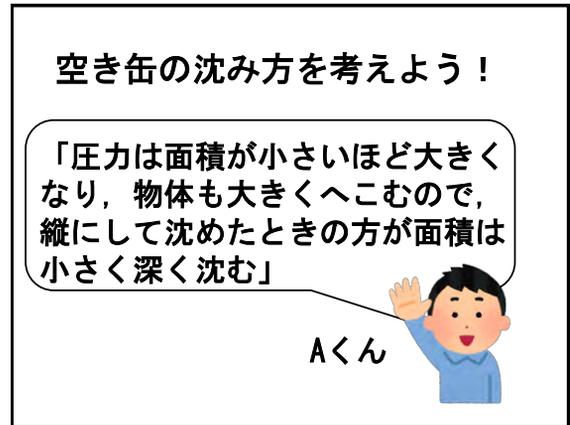
(2) 展開

学習過程	学習活動 課題 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺	学習形態	教師の指導・支援 評価規準
導入	1 直方体の物体を縦にして沈めたとき、横にして沈めたときで沈み方に変化があるか予想する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 物体の沈み方は、沈め方によってどのように変化するのだろうか。 </div> 2 浮沈子の様子を観察し、浮力の大きさに関係する要因を考える。 工藤が担当	② ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の素朴概念をもとにした誤った考えを提示して、生徒に批判的な思考をさせる。 「圧力は面積が小さいほど大きくなり、物体も大きくへこむので、縦にして沈めたときの方が面積は小さく深く沈む」 ・ 浮沈子の観察を通して、浮力と体積の関係性を見出すために、醤油差しを用いた手作りの浮沈子の他に観察しやすく改良した試験管を用いた浮沈子も用意し観察させる。
展開	3 浮力の正体を考える。 4 浮力の大きさの式を導出する。 鳥井が担当	② ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立方体の側面をゴムにした物体を沈めた様子を観察させ、深くなるほど水から受ける力が大きくなることに気づかせる。 ・ 証明は穴埋め形式で行うが、苦手な生徒も最後までたどり着けるように、ヒントカードを用意し、必要な生徒には活用させる。
	5 学習課題について、3で学習した浮力の知識を用いて説明する。	③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公式について実感の伴った理解を促すために、公式に出てくる物理量を変化させ、その結果を生徒達に思考させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 物体の沈み方について、浮力と体積との関係性を見出して説明できる。(思考・判断・表現) (学習プリントのまとめ) </div>
まとめ	6 本時のまとめを記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 浮力は$\rho V g$ [N]より、体積に依存し、沈め方によって沈んでいる部分の体積は変化しない。 </div>	④	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浮力について生徒がより興味を持てるように、浮力を用いた実験器具の「密度の塔」を提示し、次時の授業で思考させる。

3 協議の視点

主体的・対話的で深い学びを実現するために適切な授業であったか。

※学習形態 ①個人 ②個人→グループ→全体 ③個人→グループ ④全体 を表す



浮力の大きさを表す式を求めよう！

<導出の流れ>

- ① 自力で解いてみる 3分
- ② ヒントを見て穴埋め 4分
- ③ 隣の人と相談・確認 3分

ところで浮力の正体って…



今日の課題について再び考えよう！

導出した浮力の式を参考にして、今日の課題について考え、説明しよう。

沈め方の違いで沈む体積は

なぜなら…



まとめ（自分の言葉で）

●浮力の大きさ $F =$

●沈め方の違いにより沈み方は _____
なぜなら、

本時の目標：

課題：物体の沈み方を考えよう！

物体を、縦にしたり横にしたりしながら水に沈めてみる。このとき、どちらがより多く水中に沈むだろうか？



<予想>

より沈むのは _____

なぜなら…

実験：浮沈子をヒントにして浮力を考えよう！

ペットボトル内は水で満たされ、「浮沈子」とよばれるものも入れてある。このペットボトルを握ったり、離したりすると、中で何が起こるだろう？



(浮沈子の画像)

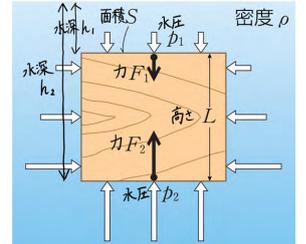
(自分の言葉でまとめよう)

何が起きたか？

観察して気づいたこと

導出：浮力の大きさを表す式を求めよう！

浮力の正体は…



物体の下面を水が押す力 $F_1 =$

物体の上面を水が押す力 $F_2 =$

よって、

浮力の大きさ $F =$

考察：導出して得られた式を利用して、今日の課題について再び考えよう！

<自分の考え>

沈め方の違いにより、沈む体積は _____

なぜなら…

今日のまとめ

浮力の大きさ $F =$

(友達の考えも踏まえて、まとめなおそう)

沈め方の違いにより、沈む体積は _____

なぜなら、

※本時の終わりに回収します

ヒントカード ～浮力のさらなる高みへ～

復習① 水圧の大きさ p [Pa]

$$p = \rho g h$$

ρ : 水の密度 [kg/m³]

g : 重力加速度 [m/s²]

h : 水深 [m]

復習② 圧力の大きさ P [Pa]

$$P = \frac{F}{S} \Leftrightarrow F = \boxed{1}$$

P : 圧力 [Pa]

F : 面を押す力の大きさ [N]

S : 面積 [m²]

上のヒントを踏まえて右図を見ると...

物体の下面を水が押す力 F_1

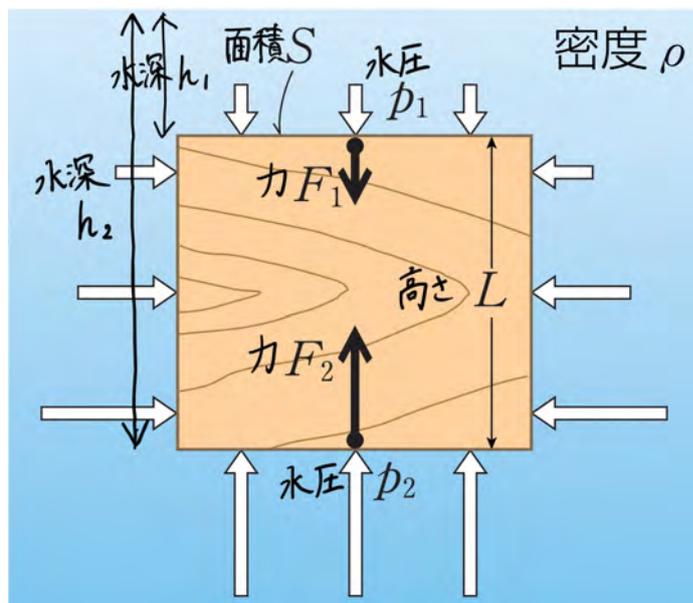
$$F_1 = \boxed{2} \times \boxed{3}$$

$$= \boxed{4}$$

物体の上面を水が押す力 F_2

$$F_2 = \boxed{5} \times \boxed{6}$$

$$= \boxed{7}$$



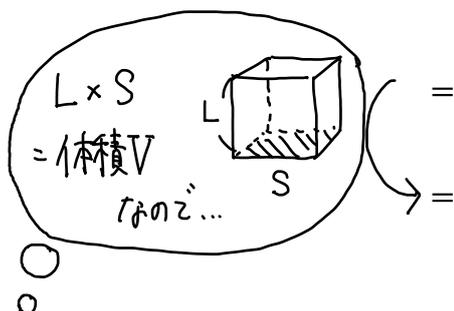
よって、浮力の大きさ $F = F_2 - F_1$

$$= \boxed{8} - \boxed{9}$$

$$= \boxed{10}$$

$$= \boxed{11}$$

同じ文字式は
まとめて...



所感

鳥井 拓弥

実践的指導力習得研修講座（高等学校3年目）Ⅰ

今回の研修では主に保護者対応や学級経営について、講義を受講した。採用から2年が経過して、これまでの実務経験を振り返る良い機会となった。

これまでに、保護者対応の際にどのように声をかけたら良かったのだろうか悩んだケースがあったが、周囲の先生方も同様のケースを経験し、その都度学んできたのだと演習を通して感じた。実際の教職経験を振り返りながら、よりよい保護者との連携の在り方や学級経営における目標設定などを学び直すことで、今後の業務に参考になることが多かったように思う。特に、日頃から良好な関係を築くことができるよう、こまめな情報発信や連絡を積極的に行っていきたいと感じた。

また、次回の研修では同期採用の工藤稔先生と共同で模擬授業を行うことになった。今回の教科指導に関する研修の内容を踏まえ、入念に準備を重ねて次回の研修に臨みたい。

実践的指導力習得研修講座（高等学校3年目）Ⅱ

他校・他教科の先生方との授業研修を通して、同じ「主体的・対話的で深い学び」という同じ目的であっても、その方法やアプローチは多様であることを実感した。1つの方法に固執することなく、生徒たちの実態や、目的と教材に合わせて様々な授業展開・方法の引き出しを用意しておくことが重要であると考えた。今一度、より良い方法を求めて、様々な実践例を参考にして自身の授業で試行錯誤して、自身の今後の糧としていきたいと思う。

地理歴史科（日本史 B）学習指導案

日 時 令和元年9月3日（火）
 指 導 者 保坂 由衣（由利高校）
 渡部 拓（大館鳳鳴高校）

- 1 単元名 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱
 題材名 「日米修好通商条約」

2 本時の計画

(1) ねらい

諸資料の読み取りを通して、日米修好通商条約締結後の百姓一揆の高まりの背景を考察し、説明することができる。

(2) 展 開

模擬授業提示部分

時間	学習活動	指導上の留意点	資料・評価
導入 7分	<p>1 資料を通して、日米修好通商条約締結によって貿易が開始されたことを確認する。【個】</p> <p>2 百姓一揆の発生件数の推移のグラフを読み取る。【個】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 貿易額の推移についてのグラフを見せ、「輸出>輸入」であることに着目させる。 代表的輸出品である生糸に着目させ、貿易により生糸の生産が拡大したことを確認する。 飢饉の際に百姓一揆が多発していることを確認させる。 1860年代にも百姓一揆が多発していることに着目させ、その理由について発問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント ①貿易額の推移 ②主要貿易品の割合 ② 百姓一揆の発生件数の推移
展開 38分	<p>学習課題：日米修好通商条約締結後、なぜ百姓一揆は高まりを見せるのか。</p>		
	<p>3 グループで役割を分担し、資料 A・Bを読み取る。【個】 [資料 A] 米価上昇・生活圧迫の背景を読み取る。 [資料 B] 英産綿織物輸入の影響を読み取る。</p> <p>4 読み取った資料についての説明を行ったり、説明を聞いたりする。【グ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが資料のエキスパートとして、説明することができるように資料を読み取らせる。 机間指導を行い、適宜助言する。 資料を示しながら説明することや、メモをとりながら説明を聞くことを指示する。 	③ [資料 A] ①為替レート ②貨幣改鑄の資料 ③物価グラフ [資料 B] ①国別貿易グラフ ②英綿織物工場の様子 ③国内織屋の様子
	<p>5 学習課題に対する答えをまとめるための使うべきキーワードを決める。【グ】</p> <p>6 キーワードを用いて、学習課題に対する答えを考察する。【グ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを決めさせることで、グループ内で資料に対する理解を深めさせる。 キーワードを用いて文章化させることで、さらに思考を整理させる。 	
	<p>7 考えた答えを確認し、「世直し一揆」の性格を理解する。【全】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数名を指名し、全体の場で発表させる。 既習の百姓一揆と「世直し一揆」との性格の違いを理解させる。 	
まとめ 5分	<p>学習課題に対する答え： 条約締結後、日本から大量に金が流失した。そのため幕府は万延貨幣改鑄を行い、貨幣の実質価値が下がって物価が上昇した。また、物価が上昇して、庶民の不満が高まり、百姓一揆が多くなった。綿織物業においては、イギリスから機械生産の安価な製品が大量に輸入された。これにより、国内の綿織物業が打撃を受け、貿易に対する反感が高まり、百姓一揆の多発につながった。</p>		<p>【思・判・表】 諸資料の読み取りを通して、日米修好通商条約締結後の百姓一揆の高まりの背景を考察し、説明することができる。</p>

3 協議の視点

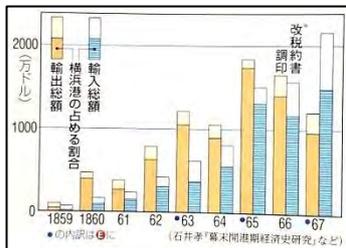
主体的・対話的で深い学びを実現するために適切な授業であったか。

1 開国と幕末の動乱

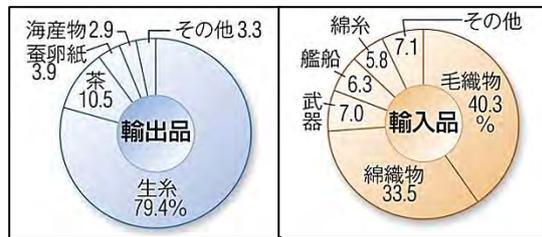
日米修好通商条約

学習課題：

1 ①貿易額の推移

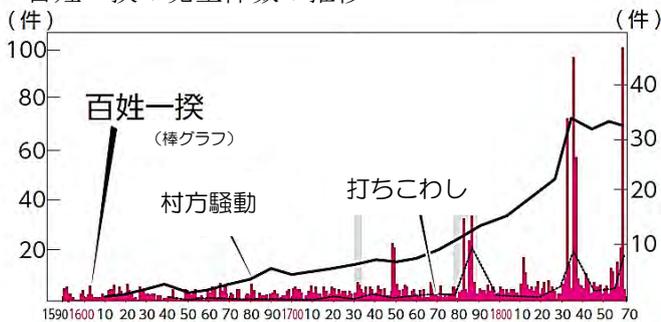


②主要貿易品の割合 (1865年)



Q. 2つのグラフを見て、気付いたことを書きだそう。

2 百姓一揆の発生件数の推移



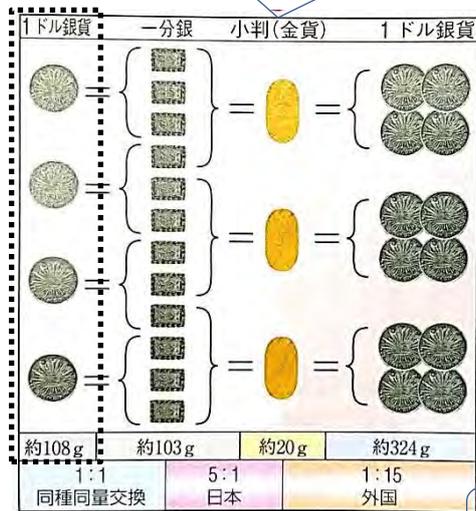
Q. 百姓一揆が多く発生するのはどのような時？

← 復習

3 [資料A]

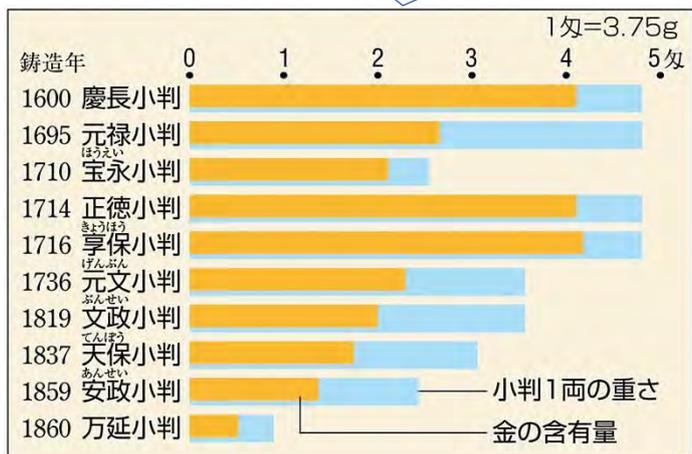
外国から1ドル銀貨を日本へ持ち込み、交換するとどうなるかな？

①為替レート



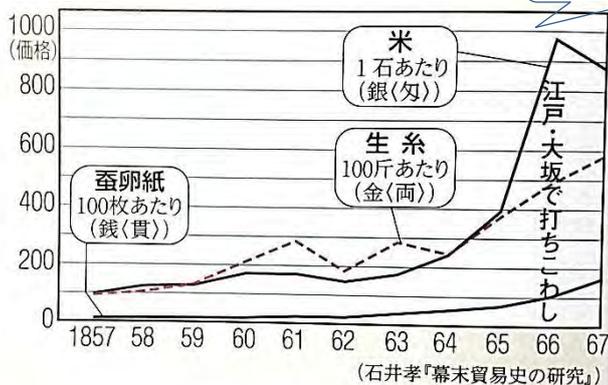
②貨幣改鑄のグラフ

金の含有量や重さを減らすと、小判の生産量はどうなるかな？



③物価グラフ

影響を受ける人々はどう思うかな？

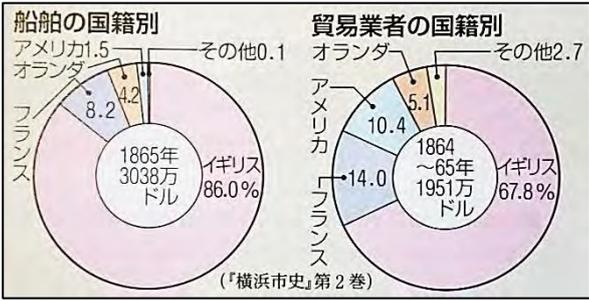


Q. 資料Aをふまえて言えることは？

〔資料 B〕

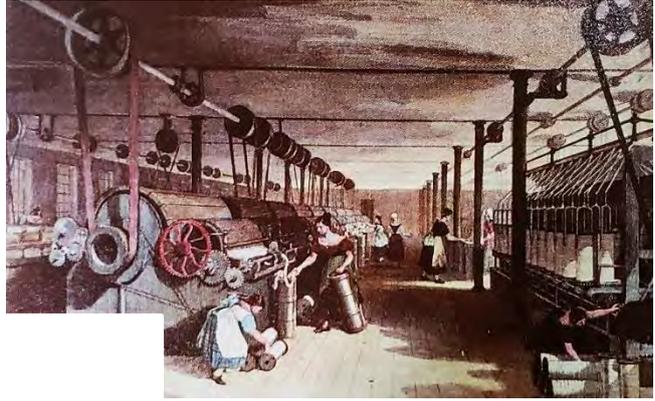
① 国別貿易グラフ

主要貿易国は？
何が輸入されていたっけ？



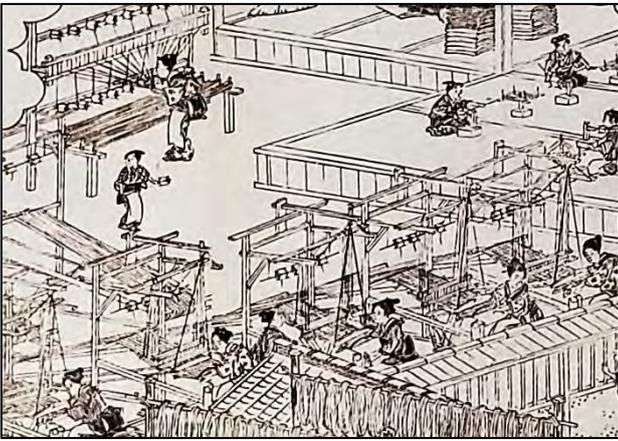
② イギリスの綿織物工場の様子

どのように生産している？



どのように生産している？

③ 国内の織屋（綿織物生産）の様子



Q. 資料Bをふまえて言えることは？

4 学習課題に対する答えをまとめるために、使うべきキーワードを決めよう！【グループ】

{



5 学習課題に対する答えを文章でまとめよう！【グループ】

所感

保坂 由衣

実践的指導力習得研修講座（高等学校3年目）Ⅰ

高校教員として3年目を迎えた。今回の研修では、これまでの自らの指導について振り返る良い機会となった。

「保護者対応と連携では、保護者との関わり方について改めて学ぶことができた。昨年からは学級担任を務めている私にとって、保護者と関わる機会は少なくない。これまでも三者面談等で保護者とお話することがあったが、その際何をどう伝えたら良いのか分からず苦労した。研修では特に、こちらからの情報提供と保護者からの情報収集の大切さについて知ることができた。保護者と直接関わる機会を生かし、信頼関係を築けるようにしていきたいと感じた。

「学校組織の一員として―学校教育目標とホームルーム経営―」では、主に自らのホームルーム経営について、振り返ることができた。これまでは、日々の生活に精一杯になりホームルーム経営について振り返ったり改善したりということを改めてすることはなかった。しかし、ホームルーム経営についても、P D C Aサイクル等で分析・検証することも大切なのだと学んだ。

「単元（題材）及び単位時間の授業構想と実践①では、新学習指導要領がどのように変わったのかを学ぶことができた。科目名や単位数を変化させたことの意図を知り、今後の授業の在り方について漠然とではあるがイメージを持つことができた。次回の研修では、2年目の先生と一緒に作成した指導案をもとに模擬授業を行う。その際、「生徒にどのような力を身に付けさせたいのか」という点を大切にしたいと思った。

実践的指導力習得研修講座（高等学校3年目）Ⅱ

今回の研修では、事前に作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて協議するという内容であった。学習指導案は同一教科の先生と合同で作成することとなり、約3か月間他校の先生と何度も連絡を取り合いながら作成した。授業プリントや模擬授業時の展開についても検討を重ね、当日は分担しながら約20分間の模擬授業を行った。

模擬授業では、おおよそ準備してきたとおりに進めることができた。私たちの授業では資料の読み取りと、その説明さらにキーワードを用いて文章化するという展開を考えていた。事前の準備の段階で資料の精選について非常に苦慮したが生徒役として模擬授業を受けていただいた他の先生方もやはり読み取りに少し苦戦しているようであった。しかし、

思っているより読み取りや説明ができていた部分もあり、さらなる資料の工夫やヒントの出し方等の改善を考えられそうだと感じた。協議の中では生徒役の先生方からこれまで思いも寄らなかったような感想をいただけて驚いたとともに、非常に参考にもなった。授業に対して、生徒がどう感じているのかということを知ることができ、今後の授業改善に生かしていきたいと思った。

他教科の先生方の模擬授業も、様々な面で創意工夫がされており、授業を受けていて率直に面白かった。私は国語・英語・家庭の模擬授業を拝見したが、どのような内容も社会科の内容と密接に関わっていることを感じた。社会科と他教科との教科横断型授業を高校においても実践してみると、非常に面白いのではないかと考えた。

実施日時：令和元年9月3日（火）

授業者：幸野 純大

小椋 ちひろ

宮腰 果林

教科書：MY WAY English Communication I（三省堂）

1 単元名 Lesson 1 A Story about Names Section 1

2 本時の計画

(1) ねらい

- ①日本と他国での姓名表記の違いを通して、文化によって姓名の言い方が異なることを理解する。
- ②自分自身の姓名の表し方について、英語で意見を述べるができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいALTへの自己紹介として、英語と日本語で自分の名刺を作成する。 ・作成した名刺を用いて、ペアで自分の名前とその由来を伝え合う。 ・全体で数名が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTに名前を覚えてもらうための名刺であることを意識させ、自由な形式で名刺を書かせる。 ○姓名の順序にはあえて触れず、多様性をもたせる。 ○机間指導の際に数名を指名し、全体に提示できるよう大きな紙に書かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>目標：My name is _____.</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ○目標は板書での提示とし、全体での確認はしない。
展開 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の新聞記事を読み、姓名表記にどのような違いがあるかを考える。 ・ペアと全体で意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や国によって姓名表記の仕方に違いがあるということを発見できるよう促す。
8分	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文を聞き、教師の質問の答えをワークシートに記入する。 ・ペアと全体で意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の内容について英語で質問する。 ○姓名の順序と文化の違いに関する部分を全体で確認し、理解を促す。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を音読する。 ①教師の後に続けて ②個人読み ③ペア読み ・本文の穴埋め要約文を完成させる。 ・穴埋め要約文の答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読みにくい箇所は繰り返し発音する。 ○意味の区切れ目に注意させる。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書いた名刺に立ち返り、姓名の順序について分かったことを振り返りシートに記入する。 ・宿題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容や発表内容について、教師が簡単にコメントする。 ○本時の内容を踏まえて宿題に取り組むよう指示する。

3 協議の視点

主体的・対話的で深い学びを実現するために適切な授業であったか。

～単元の導入として、生徒の主体性や思考力を向上させるような授業であったか。～

Lesson 1 A Story about Names

Section 1 目標 : My name is _____.

1. Make your business card.

Write your name in Kanji and English.

2. Introduce yourself to your partner, showing your business card.

Tell your partner what your name (Kanji) means and the origin of your name.

My name is _____.

- _____ means _____.
- _____ comes from [my mother's / my father's] name.
- My family hopes that _____

3. Newspaper articles

4. Answer the questions your teacher asks.

1. _____

2. _____

3. _____

5. Practice reading.

1. Repeat after
2. By yourself
3. Pair

6. Fill in the blanks and complete the summary.

Section 1 Summary

The name order () from culture to culture. In () countries, for example, the given name comes before the () name. In the West, People focus on "()" On the other hand, in some countries in Asia, the family name comes before the given name. In the (), people focus on "()."

Section 1 Summary 答え

The name order differs from culture to culture. In western countries, for example, the given name comes before the family name. People focus on "individuals." On the other hand, in some countries in Asia, the family name comes before the given name. In the east, people focus on "family."

所感

宮腰 果林

実践的指導力習得研修講座（高等学校3年目）Ⅰ

今回の研修では、昨年度の初任者研修や日々の業務を通して学んだことなどを踏まえて保護者対応とホームルーム経営に関して、より理解を深めることができた。同期の先生方とも近況を報告し合い、教科指導やクラス経営など様々な話を共有することができた。

保護者対応と連携についての講義では、何事も生じていないときに保護者とよい関係を結んでおくことが大切だと感じた。保護者への情報提供のツールとして、学年部で連絡をメールで一斉送信したりクラッシーで提出物の期限などを知らせたりしている学校もあると聞き、保護者のニーズに沿った形で情報を提供していくことが重要だと思った。

組織マネジメントとホームルーム経営についての講座では、SWOT分析で学校や学級の強みを生かしたホームルームづくりを考えた。弱みや強みを組み合わせて新たな策が生まれることが分かったので、視野を広くもって柔軟な考えや発想で学級経営をしていきたい。

今年は、教科指導に加えて保護者の対応や学級経営など日々試行錯誤しているが、生徒によって、そして場合によって状況が全く違うと感じている。先生方から助言をもらい、対応の仕方を学んでいきたい。

実践的指導力習得研修講座（高等学校3年目）Ⅱ

2回目となる今回の研修では、他教科の先生方との模擬授業と付箋紙方による協議を通して、アクティブラーニングの視点から、授業作りについて実践的に理解を深めることができた。自分自身の模擬授業について、少ない打合せの中で授業を作るのは苦労したが、他の二人の先生方と協力して形にすることができた。

協議のテーマは「主体的で対話的な深い学びを実現するための授業作り」であった。学習内容が教科書の表面的な部分で終わることのないよう、生徒が現実味を持って考えられる構成にできたことは、深い学びの視点で効果があったと感じた。ただ、生徒が主体的に考える発問が少なく目標の達成には及ばなかったかもしれない。4技能をバランス良く習得させることも大切だが、生徒が自主的に取り組めるように、もっと工夫が必要だと感じた。また、1時間にやりたいことを詰め込みすぎず、本時のゴールを明確かつシンプルにしていきたい。

家庭科、国語、地歴の先生方の授業を受けてみて、生徒の興味関心を引きつける導入や思考力を伸ばすための展開の工夫などが随所に見られ、とても勉強になった。英語科の枠を超えて、生徒の考える力を伸ばすにはどうしたらいいか、日頃から追求し、積極的に実践していきたい。

研究授業

令和元年度教育委員会指導主事等の学校訪問 実施要項

秋田県立由利高等学校

1 訪問日

令和元年10月25日（金）

2 訪問者

高校教育課	主任指導主事	勝 又 貞 臣	(地理歴史)
〃	指導主事	近 藤 俊 春	(商 業)
保健体育課	指導主事	佐 藤 大 優	(保健体育)
秋田中央高等学校	教育専門監	浅 沼 和 子	(家 庭)
中央教育事務所	指導主事	沼 倉 友 和	
中央教育事務所由利出張所	指導主事	佐 川 透	

3 重点指導事項

(1) 組織で取り組む授業づくりの充実

- ・ねらいに基づいた授業構成
- ・生徒の思考を深める授業展開
- ・評価と検証に基づいた授業改善

(2) 「こころ 姿 振る舞い さわやか高校生運動」の推進による生徒指導の充実

- ・さわやかな整容
- ・さわやかな生活態度
- ・さわやかな学習環境

4 本校の学校訪問1か月前課題

主体性を育み、思考力を高めるための授業実践

～学びに対する意欲や探究心を高めるための明確な授業目標の提示～

5 日程

校時	時間	生徒	教職員	指導主事
1校時	8:45- 9:30	授業		
2校時	9:40-10:25	授業		
3校時	10:35-11:20	授業		校長面談（校長室）
4校時	11:30-12:15	授業	教頭・教務主任は表簿閲覧 （国際交流室）	表簿閲覧 （国際交流室） 控室（校長室）
昼休み	12:15-12:55			
5校時	12:55-13:40	授業	授業（別紙授業一覧）	授業参観
放課①	13:40-14:00	研究授業対象クラス以外の生徒は清掃、放課		
6校時	14:00-14:45	授業	研究授業 世界史B(3A 教室) : 佐藤かおる・保坂由衣 体育(第1 体育館) : 月本真・高橋憂 家庭基礎(1D 教室) : 湊章子 マーケティング(教育情報室2) : 伊藤雅博	授業参観
放課②	14:45-15:00	研究授業対象クラスの生徒は清掃、放課		
	15:00-16:00	放課	授業別分科会 分科会Ⅰ：地歴（2階多目的室） 分科会Ⅱ：保体（3B 教室） 分科会Ⅲ：家庭（3C 教室） 分科会Ⅳ：商業（3D 教室）	
	16:10-16:40	放課	全体会（会議室）	

6 分科会・全体会

【分科会】進行：教科主任等

- ・授業者から本時の授業のねらい、1か月前課題との関連、感想等
- ・参観者から質問、意見等
- ・質疑応答、意見交換
- ・指導主事等から指導助言

【全体会】進行：教頭

- ・校長挨拶、指導主事等の紹介
- ・指導主事より
- ・校長挨拶

令和元年度指導主事等の学校訪問における1か月前課題

(1か月前課題)

主体性を育み、思考力を高めるための授業実践

～学びに対する意欲や探究心を高めるための明確な授業目標の提示～

(本校の現状と課題)

本校ではこれまで、平成24年度に定めた「学び合いを通じて、他者の意見や価値観を受け入れ、自己の深化を図り、新しい課題を発見できる。」というキャリア教育の目標を念頭に置いて授業を行ってきた。また、平成29年度の指導主事訪問の際に設定した「対話的な学びを効果的に取り入れた授業の実践」というテーマの下で、「授業の目標を達成するための話し合いや発表の実践」「自己の変容を確認できるようなふりかえりの実践」という具体的な方法に基づいて組織的に授業改善に取り組んできた。それによって、授業における生徒同士や授業者と生徒の間のコミュニケーションが活発となり、臆せず自分の意見を述べる場面が多く見られるようになってきた。また、教科の授業のみならず、総合的な学習（探究）の時間における探究活動や学校行事においても、書いたり話したりする言語活動を通して思考力・判断力・表現力が身に付いてきていると感じられる場面が増えている。しかしながら、授業において対話的な場面が増え、言語活動が活発化したように見えるものの、生徒の学習姿勢が本当に改善されているかという点については、疑問の声も上がっていた。昨年度の教職員による分掌評価会議や新旧学年部情報交換会などにおいて、生徒の学習状況や育成すべき生徒像などについて意見を交わす機会があったが、「主体性に欠ける」「受け身的で、学習が『作業』になってしまっている」「その場限りの理解にとどまっており、基礎知識が定着していない」などといった現状認識の声も聞かれた。

先日の指導主事訪問では、職員間で「育てたい生徒像」の共通認識を図ることが重要であるとの指摘を受けた。学校としてどのような方向に生徒を導くのか、そのために身に付けさせたい資質・能力は何か、さらにそのためにどのような手立てを講じるか、等について明確な方向性を示す必要がある。また、授業のねらいについても、教科や学年などの組織でその内容を検討すべきであるという指導もあった。

(1か月前課題設定のねらい)

上記の内容を踏まえ、次のようなねらいに基づいた授業改善を図ることとする。

生徒が学習に対する興味・関心を高め、自ら考える姿勢を持ち、達成感の得られる授業目標を示す。また、「個の思考や判断を踏まえ、協働的な学習形態によって学びを深める授業展開」となるよう努め、秋田の探究型授業を展開して学びの深化を図る。

地歴科学習指導案（世界史B）

日 時 10月25日（金）6校時
 対象クラス 3年AB組 選択者16名
 場 所 3A教室
 指 導 者 T1佐藤かおる T2保坂由衣
 使用教科書 詳説世界史B（山川出版社）

1 単元名

第15章 冷戦と第三世界の自立 2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興

2 単元の目標

- (1) 冷戦体制の下での二大陣営の対立状況と情勢の変化について、現代の諸課題と関連付けながら意欲的に考察しようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 資料を読み取り、冷戦体制における諸事象のつながりを捉え、また、差異や類似についての比較検討等を自分で考えた言葉で表現することができる。【思考・判断・表現】
- (3) 資料から情報を読み取り、思考や判断の根拠とすることができる。【資料活用の技能】
- (4) 冷戦構造の変化に関わる基本知識を身に付け、当時の国際情勢を現代世界が直面している諸課題と関連付けながら理解する。【知識・理解】

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元では主に1950年代の世界を扱う。米ソ冷戦体制の下で核開発競争も含め対立が激化し、アジアでは「熱い戦争」も勃発するが、一方では西欧諸国や日本の経済復興が進み、またソ連邦ではスターリン後の政治情勢の変化の中で東欧の自立化の動きが見られ、二大陣営のそれぞれで多様化が始まる時期である。「二つの世界」が次第に複雑化する過程を把握して今日の複雑な国際情勢について思考するとともに、日本の国際社会への復帰がどのような意味をもつものであったかを明らかにし、「世界の中の日本」について考える格好の機会ともなる単元である。

(2) 生徒観

3年A組6名・3年B組10名の選択者からなるクラスである。日頃からペアやグループで意見を交換したり考えをまとめて発表したりする学習を取り入れており、他者の発言を聴いて自己の考えを広げ深める学習姿勢をもっている。ただ、学習内容を既習事項と関連付けて捉える歴史的思考力が十分に身に付いているとは言い難い。因果関係による関連付けや地域間の比較による差異や類似の発見等の学びを通じて、生徒の思考力を高めていきたい。

(3) 指導観

上記の単元観・生徒観に基づき、ここでは前単元で学んだ冷戦構造やアジアの情勢を振り返りながら、冷戦が日本も含めたアジアに広がり国際的な枠組みを規定したことを理解させる。地図や写真等の図版を読み取る活動を通して資料活用の技能を高めるとともに、今日の国際情勢を取り上げて当時の状況と対比させ、時間の経過による変化又は連続性等について考察させる活動によって思考力・判断力・表現力を高めたい。

4 単元の指導と評価の計画

配当	学習内容	評価規準			
		A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 資料活用の技能	D 知識・理解
① 本時	朝鮮戦争の経過及び結果や、それに関わる日本の動向について学ぶ。	朝鮮半島情勢や朝鮮と日本との関わりについて関心を持ち、意欲的に学んでいる。	冷戦下で起きた朝鮮戦争の意味を思考し、適切な言葉で表現している。	資料を適切に読み取り、朝鮮半島や日本の政治状況について考察している。	
1	1950年代のアメリカ合衆国の外交及び内政の特色を把握する。西欧の経済統合や英・仏・独の情勢について学ぶ。	米国や西欧諸国の政治状況について関心を持ち、意欲的に学んでいる。	既習事項と関連付けながら諸事象の背景について思考し、適切な言葉で表現している。	地図資料を適切に読み取り、アメリカの同盟関係を把握している。	米国と西欧、ソ連と東欧の関係について理解する。
1	ソ連の政治状況の変化と、それに伴う東欧諸国の動向について学ぶ。	ソ連と東欧諸国の関わりに関心を持ち、意欲的に学んでいる。		写真資料を適切に読み取り、ソ連邦や東欧の変化について考察している。	

5 本時の計画

(1) ねらい

現代の日本と朝鮮半島の関係について関心を高めさせながら、朝鮮戦争の経過及びそれに関わる日本の状況を考察させ、冷戦によって朝鮮と日本がどのような道を歩むことになったかを把握させる。本時は新課程における新科目「歴史総合」をイメージし、日本史の教員が日本史の部分を指導する展開で実施するものとする。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見て現在の朝鮮半島情勢への関心を持ち、北朝鮮や韓国の日本との関わりについて考える。 授業テーマを見て、空欄に入る言葉を考え記入する。【個人】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「朝鮮戦争は_____をもたらした」 </div> <p>[予想される記述：「被害」「悲惨な状況」などの言葉]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在の北朝鮮と韓国の指導者の写真を示し、クイズ形式で関連事項も含めて答えさせる。 	
展開 37分	<p>① 朝鮮半島に2つの国家が分立したことを想起し、プリントに語句を記入する。【個人】</p> <p>② 朝鮮戦争の経過について、教科書の記述に基づき地図の並べ替えなどを行いながら把握する。【個人→グループ】</p> <p>③ 資料を読み、朝鮮戦争前後の日本の歩みに関する簡単な年表を作成し、朝鮮戦争と日本の関わりについて考察する。【個人→グループ】</p> <p>④ ②③のそれぞれにおいて、米ソがどう関わっていたのかを考えて表に記入する。【ペア】</p> <p>⑤ 授業テーマについて、学習集団を2種類に分けて「朝鮮に何をもちたか」「日本に何をもちたか」という観点から考え、グループごとにまとめた内容を発表する。【個人→グループ】</p> <p>[目指す記述内容：朝鮮の荒廃・停滞と日本の復興・繁栄、それぞれの米ソとの関わり]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習事項を想起させる。[T1] 教科書本文を簡潔にまとめさせた上で、対応する地図を読み取らせる。[T1 主] 語群に示された語句を確認しながら資料を読み、朝鮮情勢と対応する位置に記入させる。[T2 主] 『代理戦争』という言葉の切り口として、米ソの関わりを考えさせる。時間を効率的に使うため、ペアで分担して取り組ませる。 朝鮮の被害状況などに関する資料も参照するよう指示する。 他のグループが発表する内容は、メモを取るよう指導する。 発表後、朝鮮や日本のその後の歩みについて簡潔に説明を加える。[T1、T2] 	<p>教科書や資料に基づき、適切に並べ替えや年表作成を行うことができる。(B、C プリント)</p> <p>学んだ内容を振り返りながら協働して授業テーマに答えることができる。(A、B、C プリント)</p>
整理 3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業で学んだことや考えたことなどについて記入する。【個人】 		<p>授業での思考を自分の言葉で表現できる。(B プリント)</p>

(3) 目指す生徒の姿

朝鮮戦争についての漠然とした認識が、戦争の経過をたどり日本の状況と対比することによって深まり、戦争の背景や影響を的確に把握するとともに、冷戦下の世界諸地域の情勢について学ぶ意欲が高まる。

保健体育科 「体育」 学習指導案

日 時 令和元年10月25日(金) 校時
対象クラス 1年AB組69名(男28名女41名)
場 所 第一体育館
指 導 者 月本 真 高橋 憂

1 単元名 球技 「ネット型」 バレーボール

2 単元の目標

- ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。(態度)
- ・球技の特性や魅力に応じて、役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所を巡る攻防を展開ができるようにする。(運動の技能)
- ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

3 単元と生徒

(1) 単元観

ネットを挟んでボールを打ち合い、一定の得点に早く到達することを競うゲームであり、正確なパスやレシーブ、空いているスペースを狙ったアタック、三段攻撃などを活用した戦術を考え、連携プレイによって攻防を楽しむことができるスポーツである。

(2) 生徒観

バレーボール経験者は多くないが、明るく活発で授業の雰囲気も良く、課題練習なども仲間と協力し積極的に取り組む姿が見られる。中学校でもバレーボールに触れてきているものの、男女ともに技能の差が見られることから、バレー部や中学校までの経験者をリーダーとしながらグループでの教え合いを通して基本的な技能の定着を図り、応用につなげていけるように支援したい。

(3) 指導観

バレーボールはボールコントロールが難しく、加えて痛さやボールに対する恐怖心から苦手意識を抱える生徒が女子を中心に多い。パスを中心に基本的な技能を定着させるために、バドミントンコートを使用しボールに多く触れる機会を増やすとともに、ボールをつなげ又は「つなぐ」させる楽しさを味わわせたい。リーダーを中心に練習や試合に自主的に参加し、又、仲間のプレイを認めたり、相手を尊重したりすることでチームプレイの楽しさや充実感を味わわせ意欲の向上につなげたい。

4 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価規準			
		A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 運動の技能	D 知識・理解
1 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（チーム編成・学習ノートの説明） 個人的技能 ・パス練習（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス） 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習場所の安全を確かめるなど、健康・安全に確保しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○オーバーハンドパスとアンダーハンドパスでラリーがつながるようにコントロールできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの必要な技術の名称や行い方について学んだ具体例を挙げている。
7 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブ練習 ・スパイク練習 ・ミニゲーム（バドミントンコート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の責任を果たし、協力して教え合ったり、励まし合ったりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習やゲームから課題を解決するための方法を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サーブでコースを狙い、相手コートに入れることができる。 ○スパイクやブロック動作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。
11 ～ 14	<ul style="list-style-type: none"> 集団的技能 ・トス～スパイク ・サーブレシーブ～トス～スパイク ○個人的技能、集団的スキルを活用し適宜ゲーム（従来のバレーコート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習方法やゲームの作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームや自己の課題を捉え、練習の見直しやゲームで新たな作戦を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●練習やゲームで直上トス、オープントスを使った攻撃フォーメーションの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性や関連した体力の高め方について挙げられる。
15 ～ 20	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめのゲーム（リーグ戦を実施） ・学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアなプレイを大切にしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールを継続して楽しむための自己の適した関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 ●連携プレイのため基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの行い方について学んだ具体例を挙げている。

○ボール操作 ●ボールを持たないときの動き

5 本時の計画（6/20時間）

(1) ねらい

ボールコントロールに気を付け、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーしラリーを続けることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 5分	1. 整列、挨拶、出欠確認 2. 本時の目標と授業の流れの確認 【本時の目標】 ボールコントロールに気を付け、協力してラリーを続けよう。 3. 準備運動	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況、健康状態を確認する。 ・ホワイトボードを使用し、本時の目標と授業の流れを提示する。 	
展開 35分	4. オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの基本練習 ○リーダーによる隊列パス (各3分) <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチボール ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・隊列連続パス ・円陣連続パス ○ミニゲーム (パスのみのゲーム) <ul style="list-style-type: none"> ・特別ルールで行う。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 4分間で行う。 1本で返した場合は相手チームの得点とする。 2回以上5回以内でパスをつなぎ返球する。 2回以上5回以内で返球すると、その都度1点加算する。 1名ビブスを着用し、その人が返球した場合は2点 5回以内に返球できない場合は、相手ボールに変わる。 サーブは、下から投げて相手コートにトスをする。 </div>	○リーダーが中心となって、ボールコントロールができるように、声をかけながら隊列で行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・一回でも多くパスがつながるようにするため、パスを出す相手の名前を伝えてからパスを行わせる。 ○バドミントンコートで行うねらいを理解させ、なるべく全員がボールに触れるようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボールに触れていない生徒に助言する。(体の向きや姿勢) ・ボールコントロールを意識させるためできる限りオーバーハンドパスを使うように指示する。 ・ビブスを着用している人につなげて返球できるように声をかけパスをつなげさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパスとアンダーハンドパスでラリーがつながるようにコントロールできる。(C技能：観察)
整理 5分	5. 本時のまとめ (3分) <ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートを使用し、グループで振り返りをする。 6. 整列、挨拶、片付け	○本時の目標の振り返りをし、次時の課題を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・次時の目標につなげるため、発表をさせる。 	

家庭科学習指導案

日 時 10月25日(金) 6校時
 対象クラス 1年D組 35名
 場 所 1年D組 教室
 指 導 者 湊 章子
 使用教科書 家庭基礎 (東京書籍)

- 1 単元名 食生活をつくる
- 2 単元の目標 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を見通した食生活を営むことができるようにする。また、日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解することができるようにする。

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元では、青年期における毎日の食事の重要性について理解させ、食品群別摂取量の目安を活用して毎日の食事を考え、調理実習を通して生活の中で実践できるようにしている。また、個人の食生活の問題や食糧自給率の低下や加工食品、外食や中食への依存、食品ロスなど社会的な問題ともかかわる現代の食生活の問題点を理解させ、自分の食生活の自立に向けた課題について考えさせるようにしている。

(2) 生徒観

食に関して興味・関心をもっている生徒が多く、実習や話し合いなどについても、グループで協力しながら意欲的に取り組むことができるクラスである。各自の食生活調査を実施したところ、家庭では料理をしない生徒が多く、食品表示の見方についても理解していない生徒が多い状況である。

(3) 指導観

生涯を通じて健康で安全な食生活を営むために、日常的な食品の栄養や調理上の性質を科学的に理解させ、食生活の問題点について他者と意見を共有し、互いの考えを深めさせたい。また、調理実習を行う際は、衛生面や安全面、食事マナーについても指導していきたい。

4 単元の指導と評価の計画 (全8時間)

時	学習内容	評価規準			
		A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
1	食生活の課題について考える	食生活の課題について考えようとしている。	食生活の問題点について考えることができる。		
1	食事と栄養・食品			資料を活用し栄養素を多く含む食品を調べることができる。	栄養素の種類と体内での働きについて理解している。
1	食生活の安全と衛生		食品を購入するときの基準について考えることができる。	資料を活用して加工食品の表示を読みとることができる。	

1	生涯の健康を見通した食事計画		家族の1日の献立を作成することができる。		食品群別摂取量の目安について理解している。
3	調理の基礎	グループで協力して実習を行うことができる。		実習を通して基本的な調理技術を身に付けることができる。	
1	これからの食生活(本時)	グループの話し合いに積極的に参加している。	家庭の食品ロスを減らす工夫について考えることができる。		日本の食品ロスの状況について理解している。

5 本時の計画

(1) 目標

日本の食品ロスの現状を知り、家庭の食品ロスを減らす工夫について考えることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の目標を知る。 日本の食品ロスの現状について、教科書の資料を参考にしてワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の目標を確認する。 家庭の食品ロスの原因が、食べ残しや過剰除去、直接廃棄であることを資料で確認させる。 	知識・理解 (ワークシート)
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の食品ロスを減らすための工夫について、3つの小テーマについてグループに分かれて話し合いをする。 小テーマ <ol style="list-style-type: none"> ① 食品の購入方法について ② 食品の在庫管理の工夫について ③ 献立や調理方法の工夫について 各グループが担当する小テーマについて、付箋紙を活用して発表し合い意見を共有する。 各班の話し合いの結果を発表する。 発表内容から、新たな気づきをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で進行係、発表係、記録係を決定し、主体的に学習活動に参加させる。 グループワークを通して、自分の考えを深めさせる。 机間指導をしながら積極的に発言するように働きかける。 聴く・話す・意見をまとめるなど主体的な学習を実践させる。 	関心・態度 (行動観察) 思考・判断・表現 (ワークシート)
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返って、わかったことや気付いたことをワークシートに記入し自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返りができるように自己評価をさせる。 	

商業科学習指導案

日 時	10月25日(金) 6校時
対象クラス	3年A組 選択者23名
場 所	情報教育室
指 導 者	伊藤雅博
使用教科書	マーケティング新訂版(実教出版)

1 単元名

販売促進

2 単元の目標

販売促進の役割を認識させ、その方法や種類を理解させる。

3 単元と生徒

(1) 単元観

商品を購入したいという気持ちを起こさせる。

(2) 生徒観

男子4名・女子19名の計23名の選択授業である。

高校卒業後は就職を希望している生徒が多く、ビジネス全般に対する関心が高い。

(3) 指導観

販売促進の方法や機能に偏らず、コミュニケーションとしての役割についても感じ取ってほしい。

4 単元の指導と評価の計画

時 数	学習内容	評価規準			
		A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
2	販売促進の重要性 (本時1/2)	販売促進について関心をもち、提供された情報を積極的に利用しようとしている。	各種の販売促進活動を計画的、合理的に行うことを目指して思考を深めている。	各種の販売促進戦略を身に付け、その技術を適切に活用している。	販売促進活動の説得機能と情報提供機能を正しく理解している。
3	広告				
3	販売員活動				
3	ブランド				
3	信用販売				
1	その他の販売促進				

5 本時の計画

(1) ねらい

販売促進の諸活動が消費者とのコミュニケーションであることに気付かせる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換を通じて、由利高祭の商品販売において展開された販売促進の諸活動を考える。 	<p>由利高祭の商品販売を振り返ることで、販売促進の諸活動が行われていたことに気付かせる。</p>	A (観察)
<p>【意見交換の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①焼き鳥を販売するにあたり、どのような情報が外部に発信されたか。 ②それはどのような手段で、来校者に伝えられたか。 ③商品情報や販売情報を来校者に伝える必要性は何か。 			
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 販売促進の内容について学習する。 意見交換を行うことで、販売促進の諸活動について考える。 	<p>販売促進の概要について全体像を把握させる。</p> <p>意見交換を通して、販売促進の諸活動が、いかに実生活に入り込んでいるかに気付かせる。</p>	B (観察)
<p>【意見交換の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心が揺さぶられた広告 ②こだわりのブランド 			
	<ul style="list-style-type: none"> 販売促進の進め方について学習する。 	<p>「2種類の販売促進戦略」については、単元の最後に学び直しをすることを伝える。</p>	
整理 5分	<p>本時の振り返り</p>	<p>本時の目標達成状況を確認する。</p>	

令和元年度教育委員会指導主事等の学校訪問 分科会記録

(教科：地理歴史)

1 授業者から

・冷戦下で何が起きたか学ぶ単元。前節で冷戦開始を学び、今日は2節の最初の時間だった。日本史と融合した。目標の提示で空欄にした部分の言葉を考えさせたかった。一つの事象を多面的に捉えることをイメージした。1か月前課題に関連させることができた。目標は明確に毎時間示している。生徒は助けてくれ感謝。前向きに取り組んだ。目指すところはできたと思う。(T1・佐藤かおる)

・(2)の部分を中心に担当したが、思った以上に生徒は混乱していた。キーワードを当てはめるところで助言を与えれば良かった。(3)では生徒が追いついていた。(T2・保坂由衣)

2 参観者の感想など

・班活動のメリハリがあった。TTが新鮮だった。目標の空欄は分かりやすい。生徒は受けやすかったと思う。(伊藤崇志)

・時間のメリハリがあった。スクリーンが新鮮で、視覚に訴えるし時間短縮になる。意見交換が良かった。生徒が明るく元気であった。目標に目的語を具体的に入れれば良かった。(石川明美)

・生徒は頑張って読み解きまとめていた。テーマを考えさせるのが意欲の向上につながった。活動がしっかりできていた。プリントで視覚的に歴史の流れが分かって面白い。このようなシートを生物でも取り入れたい。(新田智美)

・授業展開、特に(3)(4)の部分が画期的であった。自分ならプリントの左側の内容で終わるが、ここを簡単に扱って右側の内容に入っていた。左側に1時間かけると右側にもっと時間をかけられたと思う。マッカーサーと中華民国が出てこないのが疑問だった。補足してもよかった。(渡邊慎一)

・歴史総合がどのような科目になるのか自分も興味があり、実験的な授業だったと思う。目標に空欄があったのが新鮮だった。ちょうど政経でも扱った単元であり、学習内容を歴史科目にも生かす責任を感じた。プリントを毎時間回収してその文章記述箇所を添削されているのか興味をもった。(記録・斎藤孝輔)

・歴史総合の先取りとなる良い授業だった。意欲を引き出すための目標設定で悩んでいるので、今日の授業は新鮮で参考になった。こちらが考える以上に生徒は苦戦したようで、プリントの記入がなかなか進んでいなかった。ヒントの出し方や時間配分が難しい。(司会・関谷信之)

3 質疑応答、意見交換(目標の提示方法や普段の授業での工夫など)

・普段のプリントはB51枚、ノートに貼らせて定期考査ごとに点検する。短文もあるが語句の穴埋め中心。普段はPPではなく板書である。マッカーサーは世界史の教科書には出てこない。中華民国は既習事項。ペア学習はよくやるが班活動は単元のまとめなどの際に行う。座席は考査ごとにくじ引きで決める。(佐藤)

・話題になることの中心のところに関して問いを立てることが多い。(伊藤)

・生物は覚えることが多いので、「～を知ろう」形式の目標が多いが、話合いの時はなぜ、どうしてという表現にしている。実験室でいつも班単位のため話合いがしやすい。各班にWBを渡して発表させている。発表のどきどき感をもたせる。(新田)

・基本は「理解しよう」だが、考える場面では「なぜか」と提示する。(関谷)

・ペアで話合いはよくやる。机を近づけさせるのは参考になる。(保坂)

・教育実習生の授業を参考に昨年目標を一斉音読させている。憲法の条文も以前の指名読みではなく、一斉音読にして授業に参加させ、記憶の定着を図る。(斎藤)

4 指導・助言

歴史総合をイメージした斬新で画期的な授業だった。来年か再来年に教科書が出る予定。現行の世界史Aの文言が歴史総合につながる。項目の文末がすべて「私たち」になっており、近現代史では今の自分はどう関わるかという視点が大切。中学校の繰返しという歴史教育の反省を踏まえ、古代は学習済みという前提で進める。目標の空欄を考えると授業のメインだったが、何もない状態で考えさせることが主体的な学びにつながる。導入と結論の比較、代理戦争のイメージについて次回扱ってほしい。プリントの余白に豆知識等があるとよい。

(教科：保健体育)

1 授業者から

(高橋憂先生) 球技が苦手な生徒が多く、経験者でも基本が出来ていない場合もある。パス中心の練習を行ってもコントロールがうまくできないなど多くの生徒が困難な状況である。ルールを変更するなどしながら基本的なところをしっかりと行って次回につなげたい。

(月本真先生) 女子はボールに消極的な生徒とそうでない生徒が両極端である。そのような状況で、どうやって満足感を持たせればよいか課題である。

2 参観者から

(宮腰果林先生) 体育の授業はなかなか観る機会がなく、目標を明確にして授業展開している流れが参考になった。グループ分けやできない生徒への対応はどうしているのか。

(月本真先生) グループ分けは人間関係もあり、まかせるとバランスが崩れるのでこちらで調整している。バレー部、バレー経験者、球技得意、身長など考慮し編成。

(猪股一稀先生) 隊列、準備運動などオーガナイズされていてよかった。リーダーとなる生徒は、自分たちで決めているのか？

(高橋憂先生) 各グループで決めている。リーダーにボールを集める目的に到達できていない。

(進藤宣也先生) 授業と一緒に入って、できない生徒にアドバイスを与えているが、自分で気付かせるための効果的な声かけが必要だと感じている。

(佐藤信先生) バレーボール学習ノートの活用など考え抜かれた授業であった。教室は違い、生徒の生き生きした姿が見受けられた。

(猪股秀明先生) チャイム前に整列するなどしつけができていた。学習ノートの活用もよかった。できる生徒、できない生徒がいる中でどこをどう見るかが難しいと思う。

(高橋憂先生) 場合によっては、チームと一緒に入って様子を見ている。

(月本真先生) グループの中で相手に気遣いながら目標達成に向かってるか注視している。

(寺田教頭) ホワイトボードにやる内容を書いていて見通しがたってよかった。ネット型の球技において、用具、場、ルールそれぞれに工夫がされていて、みんなにボールを触らせる工夫がありよかった。話合いの場面で、グループの区切りがあればよかった。また、キャッチボールでは、キャッチの側はオーバーまたはアンダーでなどの制限があったほうがよかった。振り返りでは、話合いの内容を発表させたが、今回の目標のためにはどうすればよいか具体的に基本的な技術について話し合っただけで述べることでよかったと思う。

3 1か月前課題について

(月本真先生) この期間に種目が変わったためやりにくかった。

(高橋憂先生) 主体性がなかなか身に付かない状況。リーダー性ある生徒が最近、少なく体育の授業を通して、リーダー性をもった生徒を作っていきたい。

4 指導・助言

今回の授業では随所に工夫が見られた。授業前に整列もでき、同じ方向でパスをするなど安全面に配慮した指示もよかった。基本練習のキャッチボールの際に今回の目標であるコントロールを意識づけできればよかった。うまくできなくても苦手意識のある生徒が体育の授業で楽しいと気付くことができることが大事である。バドミントンコートを利用したミニゲームでできるだけラリーを続けることができる工夫など他校でも取り入れて欲しいものだった。振り返りの発表を繰り返すことで、今日、何をできるようになればよいかなどの成果につながると思う。

(教科：家庭)

1 授業者から

- ・工夫した点
 - ① 話し合う時間の確保（板書せず紙を貼る、ワークシートの穴埋め）
 - ② 付箋紙法を用いた話し合い（自分の意見を出せるよう）
 - ③ グループ内での役割分担（ひとりひとりに責任を持たせる）
 - ④ ホワイトボードの利用（板書の時間短縮、混雑解消）

・感想

45分の中で考えさせる授業は難しい。
事前の準備や普段からの話し合う習慣が必要。
生徒のレディネスを踏まえた上での授業が大切。

2 参観者の感想など

- ・事前の準備が念入りで、随所に工夫が見られた内容の濃い授業だった。
（板書代わりに掲示、説明しすぎない、指示が的確）
- ・「個→グループ→全体」という広がりがよかった。
- ・本時の流れを掲示することにより、生徒が見通しを持てる。
- ・グループワークの際に役割を与えることで、ひとりひとりが活動できていた。
- ・発表の際に前に出てきて話すことは、生徒に自信を持たせることにつながる。
- ・机の配置を戻したことで、発表者に注意を向けさせることができた。

3 指導・助言

- ・生徒が集中力を切らさず授業に臨むためのしかけ（小道具、テーマ設定等）が随所に見られた素晴らしい授業であった。
- ・本時の内容を更に発展させるために、冬季休業中に実践させる、なぜ食品ロスを減らす必要があるか探究させるなどの方法もある。
- ・食品ロスに関する法律の制定、食品ロス削減月間など、タイムリーな内容だった。世の中の流れと関連づけて意識を高めていけるとよい。

(教科：商業)

1 授業者から

興味をもってもらうように授業をしている。学校祭の販売活動を通した方が良いと思い、意見交換を行った。他人の意見を見ながら行えると思いチャットの形式で行った。販売促進について興味をもってもらえたと思う。

2 授業に関する感想・質問

- ・チャットボードが興味深かった。
- ・発問の商品について分かりづらいところがあった。
- ・内容についてインターネットで調べている生徒がいて良かった。
- ・生徒の意見をもう少し授業の展開で使えば良かった。
- ・他の人のチャットの様子をうかがいながら後出しでチャットした生徒がいた。
- ・発問をもう少しシンプルにした方が良かった。

3 質疑応答...主体性をはぐくむ活動について

- ・マーケティングでは消費者ではなく企業側の視点で見ることが主体性をはぐくむことになると思う。発問の仕方が今回の反省点だった。（商業）
- ・一方的な授業とそうでない授業とバランスを考えてやっている（国語・理科）。
- ・やろうとする意欲を持たせるために、次に考えてほしいことを授業目標を提示している（国語・理科）。
- ・主体性と基礎・基本の定着のバランスを持つことも大事（国語）。

4 指導・助言

教科の枠を超えた参観で勉強になった。1か月前課題についての答えはない。教員間で情報交換を行う必要がある。チャットはリアルタイムに反映できる。生徒をフォローしながら指導していた。一つの手法として参考になった。プリントは教科書と連動されていた。主体性については毎日がグループワークというわけにもいかない。生徒が受け身でなければいい。ただ動かすということではない。振り返りの場面でグループになって共有できる時間があっても良かったのではないかと思う（今回は時間の関係で難しかった）。

研究・実践記録

- 県立高等学校教員の東北大学大学院理学研究科への派遣
- AKITAグローバルネットワーク事業

令和元年度未来を拓く！あきたの高校生学び推進事業
「県立高等学校教員の東北大学大学院理学研究科への派遣」報告書

学校名	由利高等学校	氏名	工藤卓哉
研修内容			
<p>令和元年8月29日(木)</p> <p>13:00~13:38 理学部概要説明(寺田眞浩理学研究科長)</p> <p>何故勉強していくか,将来どう役立つか考えながら,勉強のモチベーションを上げることが大事であること,大学受験に偏重するだけでは良くないという話があった。大学院生を活用して高校生に説明する事業を理学部で考えているので,東北大学の志望者がいれば大学院生を派遣してくれるようなので今後活用していきたい。</p> <p>13:38~14:45 模擬講義(森田明弘化学専攻長)</p> <p>計算分子力学についての講義だった。分子の動きはpsやfsという非常に微細な時間で起こっているが,コンピュータの進歩によりシミュレーションができるようになってきている。目では見えない動きも計算することでどのように分子が動いているか図で想像できた。最先端の技術を講義で受けることができて良かった。</p> <p>14:45~15:40 入試について(上田実教授)</p> <p>AOⅡ期の内容について,詳しく聞くことができた。筆記と面接があるが,理学部化学科では面接が2回に分かれており,2回目に筆記(化学)の答案のコピーを基にどのような考え・過程で問題を解いたか説明をするという独特な内容であった。ただ解けば良いのではなく,化学を考えて解く力が求められていることがわかった。また来年度の新テストは東北大学では英語はA2レベルが出願基準とするが出願要件としないということであった。秋田大学や秋田県立大学では英語に加点する方向であり違いが分かった。また,記述式問題は理学部では数学で点数表示の成績を合否判定に用いるということであった。新制度がまだ確定していない中,高校側に負担をかけないような配慮を考えている内容であった。</p> <p>15:40~16:15 卒業生の進路について</p> <p>90%が修士課程,20%が博士課程まで進学するという内容であった。現在製造業を中心に採用も多く,以前のようなポストクの状況はない。また,大学院の奨学金制度も以前より充実した内容となっていた。</p> <p>16:15~17:30 施設見学(巨大分子解析研究センター)(権根相准教授)</p> <p>構造決定に用いられるNMRの大型装置を見学した。800ガウスという強い磁気と4Kのヘリウムガスを用いた超伝導で解析していた。構造式決定の依頼も多く,構造によっては何日かかけてスペクトルをとっていた。秋田大学でNMRを活用していた先生の講義を思い出しながら説明を受けた。</p> <p>令和元年8月30日(金)</p> <p>9:00~10:30 学生実験体験(中村達准教授)</p> <p>自然科学総合実験の内容で,有機化合物の合成(エステル合成)をした。途中で薬品をこぼしてしまい,最後まで抽出とはいかなかったが,徐々に大学の本格的な実験をすることができたのは良い経験となった。</p> <p>10:45~12:15 秋田県出身学生の今</p> <p>秋田県出身の石田准教授と大学院生4名との懇談会だった。AOの取り組み方,普段からの学習の大切さ(休みの日は12~13時間ぐらい受験勉強に費やした。),化学科を目指すのであれば,化学の教科書は熟読しなければならない,大学院の入試についてなど,生の声を聴くことができ良い時間であった。</p>			
研修の成果とこれからの指導に役立てたいこと			
<p>今年度,久しぶりに進学校で化学を教える立場となり,今回東北大学大学院で2日間研修の機会を与えていただいたことに感謝しています。課題研究では生徒だけでテーマ設定をすることは,本校にとっては難しいと今年度初めて担当して感じました。生徒が主体的にテーマを決めることが課題研究の本来の姿ですが,困ったときのリソースとして大学と相談するというのも一つの方法であると話がありました。また,最先端の技術・内容も見たり聴いたりすることができ,普段ではできない経験をすることができました。理科の根幹となる化学を専門とする学生を本校からも出すことができるよう,これからの化学の教育に生かすとともに,化学の楽しさをもっと教えていきたいと感じました。</p>			

(様式3)

AKITAグローバルネットワーク事業 平成31年度 実施報告書

学校番号	28	学校名	秋田県立由利高等学校		
代表者(校長)	佐藤 緑		記載者 職・氏名	教諭 武田 裕子	

1 研究テーマ

「秋田の元気を掘り起こし、由利から世界へ向けて発信しよう！」

2 対象生徒

1年生 173名

2年生 165名

3 課題研究について

(1) 現2年生は課題研究の第1段階として、昨年度の冬休み期間に、進路希望分野ごとに推奨された書籍を1人1冊読み、個々に読書感想レポートをまとめた。そのレポートを各クラスで、1人ずつ発表した。2年生になってからのスタートではなく、1年生からの一連の指導の方向性と流れが必要だと考える。

(2) 2年次では、普通科・理数科・国際科の3つの学科ごとにクラスが分かれ、学科ごとの特色を出せるようになった。更にグループを細分化し、指導担当教員を1名～2名配置して、少人数でテーマに沿って手厚く指導ができるゼミ形式で探究活動を行った。理数科と国際科については、それぞれの学科の特性を生かしてテーマを設定することとし、普通科の研究テーマについては、次の3つに関わるものとして、方向性を絞った。

①地域振興

(秋田県や由利本荘地域でグローバルな視点で活躍する人について研究)

②個々の自己啓発

(自己啓発、又は運動能力・自己管理能力の伸長に関することについて研究)

③進路希望実現

(就職・進学に関わらず、将来就きたい職業について理解を深めたり、その実現方策について研究)

(3) 2年次の夏休み前に、探究活動を行った成果を論文形式にまとめて全員提出した。夏休み以降は、11月7日(木)のゼミ内発表会、14日(木)の校内発表会に向けて、パワーポイントでの資料を作成し、発表の練習を行った。

(4) 校内発表会で、生徒は4つの観点を点数化する評価シートで相互評価を行い、教員も同様の評価シートで評価を行った。それらを集計して、由利本荘市文化交流館「カダーレ」での課題研究発表会の代表を選考した。その結果、普通科から5名と1グループ、理数科から3グループ、国際科から2名と3グループが選ばれた。

(5) 12月12日(木)の課題発表会に向けて、代表に選考された発表者は更に発表内容を精査し、パワーポイント資料も効果的になるよう改善して、発表の練習を重ねた。また、2年生の生徒で組織する実行委員会が中心となり、企画から当日の運営

の仕事まで多くの生徒が主体的に関わった。また当日に向け、傍聴者・観客としてのマナーも含めて指導した。

当日は、発表者に加え、裏方スタッフも自主的・主体的に、生き生きとそれぞれの役割を遂行してくれた。客席で聞く姿勢やマナーも良く、発表者は緊張しすぎることなく、安心して発表をすることができた。

当日は悪天候のために移動が大変だった。そのため、会場に着いてから、生徒全員がホワイエで昼食をとることになり、急遽昼食会場設営などの想定外の作業をすることになったが、生徒達はてきぱきと動いてくれた。そのようなアクシデントにも関わらず、滞りなく、とても良い形で発表会を終えることができた。このような生徒の姿こそが、「秋田の元気」なのだ、と考える。

カダーレ課題研究発表会当日の様子



ホワイエには、発表者のパワーポイント資料や、弁論発表者の原稿（英語と日本語）を掲示



堂々とした発表の普通科の代表生徒



チームワークの良さが伝わる国際科のディベート班



秋田のためにグローバルな提案（国際科）



何度も実験を重ねた研究の成果（理数科）

(6) 生徒の感想

① 課題研究活動を振り返って

- ・この研究でカダーレでの発表まではいくことが出来なかったけど、これからの人生に活かせるテーマや内容になったので、今後の学校生活もこの研究から学んだことをしっかり生かして頑張りたい。またグループ活動をすることで、自分と違った考えを出してくれる人がいて、新たに発見できる部分があると分かった。また他の人の意見も取り入れることで、自分自身の大きな成長にも繋がると思った。
- ・探究活動をすることにあたり、色々な視点から物事の判断をすることが大切なのだと分かった。また実験をする上では、どれだけ良い条件を揃えてできるかが、結果に大きく影響するのだと感じた。
- ・自分の意見を伝えること、相手の話をよく聞き、それを理解することの大切さを学んだ。
- ・私はいままで人間関係が築けずに人間関係のことで今までずっと悩んでいたが、今回の研究をする事により、今までの自分の間違っていたところ、合っていたところが分かった。今後そのことをどう活かしていくかをしっかりと考え、自分を見つめ直す良い機会になった。

4 グローバルスキルアップ合宿

8月1日(木)～2日(金)に、サンルーラル大瀧(大瀧村)にて、国際科・理数科・普通科の進学希望者を対象に、グローバルスキルアップ合宿を実施した。

(1) 合宿の目的

外部講師による演習講座を通して、プレゼンテーションスキルを伸長することを目的とする。また、大学教員による講話や先進研究施設の見学を通して、生徒のグローバルな視点を育成し、学問に対する興味・関心と進路に対する意識を高める。

(2) 日程

8月1日(木)

8:00	由利高校発 (貸切バス)
9:30	サンルーラル大瀧着
9:50	開会式
10:00～11:10	講義(国語 70分)
11:20～12:30	講義(数学 70分)
12:30～13:00	昼食
13:30～14:30	外部講師による演習講座
15:00～16:00	外部講師による模擬授業
16:10～18:20	英語(130分)
18:30～19:00	夕食
19:00～22:00	自学(180分)
23:00	就寝

8月2日(金)

7:00～	8:00	朝食・掃除
8:00～	8:30	リスニング(30分)
8:30～	12:30	自学(240分)
12:30～	13:30	昼食
13:30		サンルーラル大湯発
14:00～		JAXA 宇宙科学研究所 能代ロケット実験場見学
17:30		由利高校着

(3) 外部講師による講座の内容

① 演習講座「プレゼンテーションスキルアップ講座」

講師：株式会社プレステージ・ヒューマンソリューション教育研修事業部
齋藤 祐佳子 氏 竹澤 奈穂子 氏

「人前で話す」こと、特に「効果的なプレゼンテーションをするために」ということを念頭に置いて、なるべく生徒自身が実際に身体を動かし、声を出して習得できるようになることを目指した。具体的には、「マナーの必要性(身だしなみ三原則)」「明るい表情と挨拶の大切さ」「その場に合った声の大きさと正しい言葉遣い」などを具体的に練習することを通して、人前でプレゼンテーションをする時に役立つスキルを身に付けることができ、大変有意義であった。

② 模擬授業「秋田県に必要なアグリビジネスのあり方を考える

ーグローバルな視点でのアプローチー

講師：秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科教授 津田 渉 氏

模擬授業の冒頭に、「グローバルな視点で考えるとは、世界先端的な活動に目を向けることだけではない」という話があった。大切なことは、「様々な地域の状況を知り、ローカルなそれぞれの地域において適切な行動を選択するチェック&バランスの行動が必要」ということ、そしてグローバルな人材とは、「世界の人とつながり、共感・協調しあうことのできる人材なのだ」ということであった。

また、秋田県内で成功している具体例として、酒造りのイノベーションである「NEXT 5(ネクストファイブ)」と「えだまめ日本一プロジェクト」が挙げられ、その活躍ぶりについて学ぶことができた。由利高校における本事業のテーマと合致した、地域振興について深く考えさせられる内容の講義であった。

以上の2つの講座は、最終的に課題研究発表会の舞台で大いに役立ったとともに、今後の就職試験や進学での面接やプレゼンテーションの場面でも大きな自信となっていくことと確信している。



プレゼンテーションスキルアップ講座



秋田県立大学生物資源学部教授の模擬授業

(4) フィールドワーク「JAXA 能代ロケット燃焼実験場見学」について

よく「秋田には何も無い」という言葉を耳にする。それは、生徒だけではなく、残念ながら、大人からも発せられる言葉である。しかし、本当にそうだろうか。実は、気付いていないだけではないだろうか。きれいな空気も水も美しい風景も、季節ごとの山海の幸も、伝統文化も産業も、よくよく目を向ければ、秋田にしかないもの、秋田だからあるものがあるはずだ。そのことに「気付く」ことが必要だと思う。そのために、「秋田にあるすごいもの」を生徒に見せたくて、この実験場を見学コースとして選んだ。

生徒はほぼ全員、秋田県内にこのような大がかりな実験場があることは知らなかった。最初に JAXA についての説明を受けた段階で、このような国の重要な施設が秋田県内にあったのかと、驚いた様子であった。更に、これまで実際に宇宙に飛び立って行った数多くの宇宙ロケットの燃焼実験が全てここで行われていたことを知り、紹介映像で実際のロケット噴射実験を見て、迫力ある音の大きさに心を奪われた様子であった。その後の燃焼実験施設見学では、目を輝かせて熱心に説明に聞き入っていた。

由利本荘地区は精密電子機器の産業が多いが、同じ県内でも分野の異なる最先端の技術の現場に触れることができたことは、生徒の視野を大きく広げる機会になったと考える。



講義室で JAXA について映像で説明を受ける



ロケットの模型が並ぶ見学コース

(5) 生徒の感想から

① グローバルスキルアップ講座に参加して

- ・資料や発表原稿を作るときに、相手に興味をもってもらえるように作ること、それをはっきりとした声や口調で伝えることが大切であるということがこの講座で分かった。身だしなみを整えて、「自分は話を聞いてもらう側である」ということを意識することを、今後の面接やスピーチの時に役立てたい。
- ・面接試験やプレゼンテーションで大事なことが、表やチェックポイントで分かりやすくまとめられてあり、興味が湧いた。また実践トレーニングもあったので、楽しく講座を受けることができた。今後もプレゼンテーションや面接試験などに向けて練習を重ね、実践していきたい。
- ・説得力のある伝え方や、好感を与える話し方や挨拶の仕方について知ることができたので、大変参考になった。今後もより多くの敬語表現を習得していきたいと思った。
- ・この研修を通して、人として成長できたと思った。

② 秋田県立大学模擬授業に参加して

- ・秋田県民の自分が知らなかった魅力を発見することが出来た。秋田県にはまだ自分の知らないことがたくさんあるのではないかと考えさせられる内容だった。
- ・秋田で作られた枝豆が東京などに出回って、たくさんの人に買ってもらっているということを知ってとても嬉しくなりました。その裏には、どうしたら手に取ってもらえるかいろいろな工夫がされていることが分かった。
- ・わたしは課題研究で秋田や地元のことについて研究しているのですごく参考になった。自分が知らないところでいろんな人たちが秋田を盛り上げようと努力していることを知って、私も小さなことでもいいから秋田のために貢献していきたいと思った。
- ・秋田県は過疎化が進んでるし都会でもないけど、そこで諦めるのではなくて、自分の生まれ育った町を他県や外国に住む人たちにもっともっと PR していきたい。そのためには、秋田のいいところを自分たちがたくさん見付けて、伝えていけたらいいと思った。
- ・グローバル、国際化と聞くと国全体で考えてしまうが、秋田県も国際化社会の中にあるのだと考えさせられた。

③ グローバルスキルアップ合宿全体を通して

- ・合宿では、一泊二日という短い時間でしたが、勉強や講義を主体的に学ぶことができた。勉強だけではなく、ロケットの燃焼実験場を見学して、実際に見たり、触れたりすることはとても大事なことだと改めて感じた。
- ・今回の合宿では、自分の集中力や忍耐力の可能性を知ることができた。集中できる環境というだけで、普段より遥かに多くの時間で学習に取り組むことができた。また、大学の模擬講義やマナーなどについても受講することができて自分にとってプラスになることがたくさんあったので良かった。これからの学校生活で心掛けていきたい。

5 国際交流活動について

(1) 国際科の修学旅行について

10月29日(火)～11月1日(金)の日程で、国際科の25名が台湾への修学旅行を実施した。

日程の3日目、台北市の景美女子高級中学との交流会において、台湾の生活・文化等と日本の生活・文化等との違いをテーマにして双方の文化の紹介や情報交換を行った。英語を中心に、中国語も使用しての積極的なコミュニケーション活動が見られた。また、同日午後からの班別自主研修においても短時間ではあったが、ガイド役の現地大学生と積極的に交流しようとする姿勢が顕著であった。



景美女子高級中学での交流



クイズ形式でお互いの国を紹介

(2) 生徒の感想から

① 修学旅行で台湾の景美女子高級中学の生徒と交流して

- ・現地高校生との交流では、英語、日本語、中国語でコミュニケーションを取った。由利高校の行事や部活動に興味をもってくれたので嬉しかった。
- ・台湾の高校生たちはみんな英語が流暢で、圧倒された。授業では、台湾と秋田のお祭や食べ物などをテーマに、グループごとに話し合いをした。台湾の高校生は、授業だけでなく何をするにも積極的で、英語や日本語に対する意識が私たちとは全然違うと感じた。
- ・台湾の学生は英語で普通に友だちと会話していてすごいなと思った。自分もそうなりたいと強く思った。交流を通して英語の勉強に対しての意欲が上がったし、いい刺激を受けた。
- ・高校生との交流や台湾の人々と関わりを通して、もっと外国語の学習に力を入れたいと思った。国際的な関わりをもつには外国語でコミュニケーションを取るための力が必要だと思った。また、私達自身が日本の伝統や歴史について意外と知らないことが多く、尋ねられた時に答えられなかったりすることがあった。海外に目を向けながらも、自国の文化をもっと知ろうとする姿勢をもちたい。

② 修学旅行で異文化を体験して

- ・修学旅行で台湾という国外に出てみて、台湾もいい国だなと感じた反面、日本もすごく良い国だなとも感じた。日本では当たり前だと思っていた、水道水が飲めること、トイレットペーパーをトイレに流せること、スーパーでレジ袋が貰えることなどが、当たり前ではないのだということを知った。
- ・この四日間で、沢山の方と出会って、さようならをして、寂しい気持ちが沢山あるけど、その分自分も勉強を頑張って、働いてお金を貯めて異文化に触れる経験をまたしてみたいと思いました
- ・私は台湾に行って人の温かさに触れた。誰かが困っていたら助けてくれるという当たり前のようだけど行動に移すには難しいことを、現地の方々はしていました。国を超えてコミュニケーションをとるとき、このような小さな優しさが必要になると実感した。

- ・他人であるにも関わらず、楽しそうに相手に話しかける様子を見て、これは日本ではあまり見られないのではないかと思った。日本では「知らない人」に対する壁が強く、話しかけるということが難しい。台湾に行って国の良さ、人柄の良さ、日本との違いを知り、秋田だけでなく日本全体に必要なことに、沢山気付くことができた。個人的には、「優しさを持ち続ける」という気持ちを持ち続け、これからの生活に活かしたい。
- ・修学旅行を通して、改めて日本の良さを感じた。文化の違いがあるとはいえ、やはり日本に生まれて良かった。もちろん、台湾の文化の良いところも知った。今後は、台湾にあって、秋田の振興に生かせるものを探し、秋田の活性化に努めていきたい。

6 成果と課題及び成果の普及について

(1) 成果と課題について

昨今、メディアや様々な場面で、秋田県の過疎化や高齢化を嘆く声を耳にすることが多いが、そのような声に、秋田で暮らす人々は元気を奪われているのではないかと懸念を抱いてきた。ここ秋田には、豊かな自然や山海の幸、歴史や伝統文化、世界に誇る産業のレベル、人々の温かさなど、秋田にしかない魅力があふれている。この環境を「当たり前」だと思って、実際に暮らしている人たちが気付かずにいることが多いように感じる。このAKTAグローバルネットワーク事業の話聞いた時に、この事業を通して、生徒に地元の良さに気付かせることができるのではないかと考えた。子どもは、「地域の宝」とよく言われるが、その「地域の宝」にふるさとの良さに気付かせ、地域をもっと元気に創造していけたら、と思った。そのような気持ちを込めて、テーマを「秋田の元気を掘り起こし、由利から世界へ向けて発信しよう！」と設定した。

この事業を推進するにあたっては、外へ向けたグローバリズムというよりは、まずはグローバルな視点を生徒にもたせることから始めた。地元で元気に活躍する人々に出会い、元気に頑張っている地元の店や企業などの存在とそのノウハウを知り、生徒自身の生き方に大きいヒントと元気を与えてくれることも狙った。各企画の後の生徒の感想にあるように、狙ったとおりに生徒は地域の魅力や元気に気付いてくれた。「地域の宝」は、まさに郷土愛にあふれたグローバリズムの考えをもって、堂々と自信をもって、最終段階のプレゼンテーションや、海外へ向けての発信・交流を行ってくれた。その生徒の生き生きとした姿こそが、「秋田の元気を掘り起こし」た成果である。そういった意味で、この事業は予想以上の生徒の成長ぶりを感じつつ、終えることができたと感じている。

反省点としては、今年度は課題研究が動き出してから事業指定だったので、指導する側の意識改革が不十分だったことが挙げられる。その背景として、教員も含めた大人達も地元の魅力に気付いていない、という一面があることも痛感した。そのため、指導する側の意識改革も必要なのだと考える。我々教員も、もっと地域の産業について、学ぶ機会をもつべきだと思う。このことを念頭に、来年度は次の2年部にこのテーマを更に発展させていってほしいと考える。

(2) 成果の普及について

現2年生は、1年生の時から「人前で話す」場面を多く設定し、プレゼンテーションの力を鍛えてきた。具体的には、各教室でライフプランや先行研究のまとめなどを、一人一人が発表する時間を多く設けてきた。学期を締めくくる学年集会では、学年の

生徒全員の前で複数の代表生徒がスピーチをする場面を必ず設けた。その目的は「発表することに慣れる」と「きちんと人の話を聴く姿勢を身に付ける」ことである。このように、特にプレゼンテーションに苦手意識をもたないようにと雰囲気づくりを心がけてきた。本事業を利用して、外部講師による「プレゼンテーション講座」を実施することができ、更に生徒の自己発信力を鍛えることができた。

プレゼンのノウハウだけでなく、生徒たちは、校内にとどまらず校外に飛び出して探究活動を行い、多くの地域の方々と触れ合うことができた。課題研究では、秋田県立大学本荘キャンパスで、大学の先生方に実験への御協力を仰ぎ、専門的な御助言をいただいた。そのお陰で、研究内容をさらに深め高度化することができた。また地元の事業所や商店を営む方々には、取材や調査で御協力をいただき、郷土の魅力や課題に気付くことができた。そうした「ふるさと発見」の交流活動を経て、探究活動を深めることができた。このように多くの方々のお陰で、教科書には載っていない「生きた学問」を学ぶことができた。また国際科の生徒は、台湾の現地高校生や大学生と英語や中国語を使って双方向の交流や情報発信ができた。今年度は、課題研究を海外へ向けての発信することができなかったが、来年度は今年の流れをもとに、海外への発信を実現していくようにしたい。

3月には、全員の探究活動を論文形式でまとめた冊子「課題研究報告書」を刊行する。プレゼンテーションだけでなく、記録として形に残したい。